



愛する郷土「うきは」を  
夢と希望に満ちたまちへ



新年明けまして  
おめでとーございませう  
うきは市長 高木典雄



新年明けましておめでとーございませう。市民の皆さまにおかれましては、健やかに輝かしい希望に満ちた平成最後の新年をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。また平素より、市政に対し深いご理解とご支援、ご協力を賜っておりますことに対し、年頭にあたり厚くお礼申し上げます。

新年を迎え、愛する郷土うきはをこれからもしっかりと子や孫に引き継いでいかなければならないと決意を新たにしているところであります。

● 昨年を振り返って

昨年は、4月の中津市で起きた土砂災害、6月には大阪府北部を震源とする地震、7月の西日本を中心とした豪雨災害、9月には北海道胆振東部地震や台風21号など、多くの自然災害がありました。改めて犠牲となられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被災された多くの皆さまに心からお見舞い申し上げます。うきは市においても、7月の豪雨により道路・河川及び農地等に対する被害が発生しましたが、小規模災害についてはすぐに復旧を行い、被害が大きかったものについては、順次国の災害査定を受けながら復旧作業を行っているところであり、今しばらく、ご不便をお掛け

致しますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。今後とも自然災害をはじめ危機管理体制については、万全を期して参ります。

福岡県より建設が進められていた、主要地方道八女香春線「合瀬耳納トンネル」については、12月に完成・開通の運びとなりました。うきは市と八女市は耳納連山を間に挟んでいますが、歴史的に大変深いつながりがあります。星野村においては、以前は生葉郡として一つの領域内に属していましたこともあり、これまで「うきはと星野はひとつ」を合い言葉に、平成12年度には「全国棚田サミット」を同時開催しましたし、その他にも「フルーティランドマップ」の作成や「うきは祭り」「星のまつり」での双方の交流に取り組むなどしながら、「合瀬耳納トンネル」の整備促進を国及び県に要望してまいりました。今後、うきは市と八女市の交流が更に広がるものと期待をしております。

また、10月1日からタレントのタモリさんに、「ご夫人が吉井町出身というご縁で、うきは市8人目の「ふるさと大使」にご就任いただきました。うきは市出身者やうきははにゆかりのある各界でご活躍の著名な方に「ふるさと大使」として応援していただいているところであり、人と人とのつながりを大切にし、更にうきはの輪を広げてい

きたいと考えております。



▲広報うきは2018年10月1日号表紙

地方創生の取組みの一環として、1月及び11月には東京新橋のアンテナショップにおいて、うきは市出身で東京にお住まいの方やうきは市にゆかりのある方にお集まりをいただき、うきはと東京のつながりを作ることを目的に、移住・定住に関するイベントやうきはのPRを行いました。また2月には、ALLうきは会議を行いました。これは市内各種団体が連携し、うきは市の地域活性化のために一体となり、うきは市の諸問題を解決するための地域戦略の会議です。さらに4月には道の駅うきは東側にあった旧家宝資料館を改装し、新たな交流拠点「ウキハコ」が完成しました。うきは市の「モノ・コト・ヒト」を市外、県外の方々に紹介することで、うきは市全体の経済の活性化と魅力が向上することを取組の狙いとしております。道の駅うきはについては、『九州じやらん7月号』の九州・山口の「道の駅ランキング2018」において、道

の駅うきはが3年連続の第一位となりました。

そして昨年は明治改元が布告された明治元年から起算して、満150年の年に当たることから、明治期の人々のチャレンジ精神を知る機会として、「生誕150年佐藤孝三郎特別展」を開催しました。佐藤孝三郎氏は、明治元年に小塩村に生まれ、福井県知事や名古屋市長等の要職を歴任しました。またそのご子息で明治37年生まれの法制官僚で日本国憲法の政府原案を作り上げた佐藤達夫氏についても併せて特別展を行いました。うきは市には佐藤氏以外にも、明治期に活躍した偉人がたくさんおられます。これからうきは市を担う若い人たちに伝承していくことが重要です。そしてその精神を地域力の向上へ活かすことが必要だと考えております。

## ● 新年を迎えて

平成最後の年、平成31年を迎え、官民協力や地域間連携を積極的に図りながら、主要計画及び政策等を基軸として市政運営を行って参ります。その一方で、縮小していく社会に対応すべく、現在実施している事業の見直しを行い、効果の薄いものについてはそのあり方を再考すべき時でもあります。大きな時代の流れを的確に捉え、身の丈にあった「うきは市」の行財政運営を確実に実行していかなければなりません。事業の実施にあたっては、特に「うきは市ルネッサンス戦略」と「第2次うきは市総合計画」、そして「うきは市教育大綱」等に位置づけられた事業を通じて、活力と魅力あるうきは市の形成に向け、今後も取組を加速しつつ、引き続き事業を進めてまいります。

各自治協議会が発足し6年目を迎えます。各自治協議会で積極的な取組がなされています。活動等を行うコミュニティセンターは、地域の皆さまの日常生活に根ざした学習や健康の増進を図る場、そしてこれらの活動を通して、人々が交流するコミュニケーションの場であり、地域活性化の場でもあります。これからも地域の拠点として皆さまに創り上げていただきたいと願っております。

ところですが、さらに今年は工場東側に物流センターが増設され、雇用拡大が見込まれています。市内の地場産業が益々発展し、新たな雇用創出につながり地域が活性化することを大いに期待しています。

一方、生涯学習センターとムラおこしセンターの老朽化に伴い、現在建設中の複合施設については、新たな生涯現役社会づくりやまちづくり、健康づくりの拠点となる施設として3月末には完成する予定です。施設名を公募しましたところ、「るり色ふるさと館」に決定しました。市民の皆さまから末永く親しまれ、幅広く利用していただきたいと思っております。

さらに、現在うきは市では「フルーツ王国」と呼ばれる所以を数値的に紐解き、農業に対するポテンシャルの高さを「うきはテロワール」と称し、うきはブランド構築の一つのアイテムとして活用しています。そのような中、新たな農業振興の取組として、農作物によっては傷があったり小ぶりであったりするだけで処分されてしまう、これら規格外の農作物を有効利用した新たな特産品の開発や農作物の高付加価値を図るため、6次産業化を支援する設備を備えた食品加工研究開発センターを建設することとしています。6次産業化を推進することで、生産・販売の強化とともに収益性の向

上等、農業の更なる活性化に繋がるものと考えております。

うきはの地にある素晴らしい自然環境や人々のつながり、これまで先人が築いてきた地域の伝統、文化など価値ある貴重な資源や財産の特性にさらに磨きをかけ、地域の一体的な発展を目指し、新しいうきは市をつくり上げて参りたいと思っております。また、日本に生まれる子どものおよそ半分は、100歳以上の人生を生きると推計されています。人生100年時代となつた今、いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会を作っていく必要があります。

生活環境や地域力の向上を図ることにより、いつまでも住み続けたいと思える、まちづくりを推進し、誰もが健康で心豊かな生活が送れ、次代を担う子どもたちのために、夢と希望に満ちたうきは市のまちづくりを市民の皆さまとともに進めて参ります。市民の皆さまには一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆さまにとって幸多き素晴らしい年となりますことを心より祈念いたします。新年の挨拶といたします。